



「童心」を見守り、支える夏休みに

園長 本多 郁代

ひよこ組が先生と一緒に飼育ケースを抱えてやってきました。「ねえ～、みてみてー、カブトムシになったんだよー！」嬉しそうに、さなぎから無事成虫になった感動を、ばら組やさくら組のお兄さん、お姉さんに一生懸命伝えています。

「へえ～、どこどこ！あっ、いたいた！」「みて！ほら動いた！」

「ほんとだ。また動いた！すごい！」子どもたちは学年の垣根を超えてカブトムシの入ったケースに顔を近づけのぞき込んでいます。その目はキラキラと輝いています。



別の日、さくら組がばら組、ひよこ組のお友達のためにお祭りを開いてくれました。ジュース屋さん、宝探し屋さん、さかな釣り屋さん、クレーンゲーム屋さん、花火屋さん、的あて屋さんなどいくつものお店が開店し、ばら組、ひよこ組のお友達は大喜び。いくつ

もお店を回り景品をゲットして大満足の子どももいれば、的あて屋さんで思い通りに的を倒すことができず悔し涙を流す子どもも…。いずれも全力で遊びを楽しみ、喜怒哀楽を全身で表現する姿にこちらも胸が熱くなります。幼児期の子どもたちそのものの姿です。



このような純粋で汚れを知らないまっすぐな心に触れるたびにこの「童心」がとてもまぶしくうらやましく思えるのです。私たち大人は、いろいろな経



験や体験をして、人間の表も裏も少しずつ見えてくるようになります。するといつの間にか、純粋で汚れを知らない子どものような心が消え失せてしまいます。子どもたちの姿は、そんな大人たちに純粋な心の大切さを教えてくれるのではないのでしょうか。

夏休みが始まります。ぜひ、おうちでもお子さんの「童心」を大切に見守り支えると同時に、大人もこの「童心」を一緒に楽しむ夏休みにしていただきたいと思います。

1学期が終了します。プール清掃をはじめ保護者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。8月28日、成長した子どもたちに出会えることを職員一同楽しみにしております。